

# 「徳島県農業教育活性化プラン」(案)



■全国の高校で初！ホンシメジの人工栽培



■山と木と緑のフェア(藍場浜公園)



■徳島ビジネスチャレンジメッセ(アスティとくしま)

平成23年3月

徳島県教育委員会

## 目 次

1. 策定の趣旨	1
2. 推進期間	1
3. 本県農業教育の現状と課題	2
(1) 農業教育の目標	2
(2) 本県農業教育の現状	2
(3) 本県農業教育の課題	4
4. 本県農業教育が目指す方向性	4
5. 本県農業教育の活性化に向けた取組み	5
(1) 農業科設置高校のネットワークの確立と中心校の整備	6
(2) 産学官連携による実践的な農業教育の推進	7
(3) 実践的なキャリア教育の推進	7
(4) 専門学科の枠を越えた「幅広い学習システムの導入」	7
(5) スペシャリストの育成を目指した「学科の編成」	7
(6) 地域連携・地域貢献の強化	7
6. 各農業科設置高校が取り組む活性化策	8
《参考資料1》 農業科設置高校のネットワーク図	10
《参考資料2》 各農業科設置高校等の特色ある取組み	11

## 1. 策定の趣旨

本県の農業教育については、「徳島県高校教育改革推進計画（平成14年2月）」及び「高校再編方針（平成18年3月）」等を指針として、教育内容の充実や各学校の特色づくりに取り組んできた。

また、「徳島県教育振興計画（平成20年10月）」において、本県が目指す施策の基本方針として、専門高校における職業教育の充実を位置づけ、産学官の連携などにより専門高校の活性化を促進することとしている。

さらに、農業の第六次産業化、グローバル化、ICTの急速な進展とともに、社会の変化にともなう生徒の意識の変化や進路の多様化等に対応する教育の実現に取り組むことが求められている。

このような状況を踏まえ、平成21年度において、本県農業教育の活性化に必要な専門的な調査研究を行うため、県教育委員会事務局及び農業高校関係者による「農業教育活性化ワーキンググループ」を設け、農業教育の現状分析、農業教育活性化に向けた今後の取組みなどの検討を行い、調査報告書をまとめたところである。

このような取組みの成果を踏まえ、本県農業教育の目指すべき方向を明らかにするとともに、農業教育のより一層の活性化を図り、その実現に向けた計画を着実に推進していくための方策として「徳島県農業教育活性化プラン」を策定する。

## 2. 推進期間

**2011（平成23）～2014（平成26）年度**

を目標とする4か年間で推進期間とする。

### 3. 本県農業教育の現状と課題

#### (1) 農業教育の目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

#### (2) 本県農業教育の現状

##### ① 現在の設置学科

本県に設置されている農業科は次表の4校1分校である。本校については、農業科単独校が1校、普通科との併設が1校、総合学科との併設が1校、商業科との併設が1校となっている。

平成23年度農業科の設置状況

学校名	学科及び類名	募集定員(名)	併設学科及び類名
城西高校	農業科学科	45	総合学科
城西高校 神山分校	造園土木科	20	
	生活科	10	
勝浦高校(注1)	応用生産科	25	普通科
	園芸福祉科	25	
阿波農業高校(注2)	農業科学科	40	
	園芸科学科	20	
三好高校	生物資源類	35	ビジネス類
計		220	

(注1) 勝浦高校は、平成22年度から普通科、農業科(園芸科)の両科を募集停止し、農業科(応用生産科、園芸福祉科)のみの募集。また、平成24年度に小松島西高校勝浦校(分校)となる。

(注2) 阿波農業高校は、平成24年度に鳴島商業高校と再編統合し、農業科(農業科学科、生物活用科)、商業科の併設高校(吉野川高校)となる。

## ② 農業科への進学希望状況

過去4年間の9月時点での中学3年生の進学希望者数は、仮倍率が0.58倍から0.78倍の間で推移しており、農業科への希望者が募集定員に満たない状況にある。

農業科への進学希望状況

調査年月	募集定員(名)	希望者数(名)	仮倍率
平成19年9月	215	150	0.70
平成20年9月	210	121	0.58
平成21年9月	205	148	0.72
平成22年9月	220	171	0.78

## ③ 進路状況(平成19年度～平成21年度)

専業農家や農業関連に就職する生徒は、平成19年度の22.2%から、平成21年度は10.9%となり減少傾向である。

また、農業系に進学する生徒については、平成19年度の7.8%から、平成21年度では約3倍の22.4%となり増加傾向である。その内、県立農林水産総合技術支援センター農業大学校への進学が最も多く、平成21年度では農業系進学者41名中27名が進学している。

農業科卒業生の進路状況

卒業年度	卒業生 総数	進学者 総数	農業系進学者総数		就職者 総数	農業関連就職者総数			その他	
			4年制 大学	農業 大学校		専業 農家	農業関連 会社等			
平成19年度	180	65	14	3	11	99	40	0	40	16
(%)			農業系進学者 7.8%			農業関連就職者 22.2%			8.9%	
平成20年度	173	66	32	4	28	86	29	2	27	21
(%)			農業系進学者 18.5%			農業関連就職者 16.8%			12.1%	
平成21年度	183	83	41	6	27	85	20	0	20	15
(%)			農業系進学者 22.4%			農業関連就職者 10.9%			8.2%	

(注) 平成21年度農業系進学者総数41名は、専門学校進学者を含む。

### (3) 本県農業教育の課題

#### ① 農業教育の体制づくり

- 農業科の小規模化による教育力の低下を相互補完するネットワークの構築
- 地域の特性を踏まえた農業科設置高校の役割の明確化と連携
- 地域社会に根ざし、家庭や地域から信頼される魅力ある教育活動の展開
- 生徒一人ひとりの発達段階に応じた組織的・体系的な支援

#### ② 教育内容の充実

- 有機農法、LEDを活用した栽培方法等、農業の高度化への対応
- 専門性を高める体験的な授業の展開
- 地域から信頼され、地域に貢献する教育活動の推進
- 自己実現を図るキャリア教育の推進
- 工業科や商業科など、他の専門学科との積極的な連携

#### ③ 進路指導の充実

- 効果的なインターンシップによる望ましい勤労観・職業観の育成
- 農業及び農業関連企業への就職に対する意欲の醸成と就職先の確保
- 農業関連の資格を生かした進路の実現
- ハローワークや関係機関等との連携を密にした進路指導の強化

※農業関連の資格例：園芸装飾技能士(国家資格)、造園技能士(国家資格)、フラワー装飾技能士(国家資格)  
日本農業技術検定(日本農業技術検定協会)

## 4. 本県農業教育の目指す方向性

産業構造の変化や雇用の多様化・流動化、様々な分野での国際競争の激化、少子高齢化の進行など、社会全体が大きく変化するなか、学校には、社会人・職業人として自立した人材の育成が強く求められている。

一方、若年無業者や、新卒者の早期離職が問題となるなど、「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていない状況も見られる。

このような状況を踏まえ、国においては、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」、中長期的展望に立ち、総合的な視野の下、検討が行われ、平成23年1月に中央教育審議会から答申が出された。

この答申においては、高等学校の専門学科における職業教育の推進方策等として、

- 専門分野の基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着と、「課題研究」等による問題解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成の充実
  - 地域・社会との連携を図り、体験的な学習や地域企業と連携を図った現場での長期間の実習等を通じた実践的な教育活動の実施
  - 実技等を取り入れた各種検定試験制度の積極的な活用
  - 成長分野等の地域ニーズに対応した学科の整備や教育課程の編成
  - 教員の指導力向上のための職業教育に関する研修機会の充実
- などを掲げているところである。

本県教育委員会としては、このような国の動きを踏まえつつ、本県の実情に対応した専門教育の充実に努めることとし、第6次産業などアグリスペシャリストの育成を目指す、本県農業教育の活性化に向けた具体的な取組みを着実に進めていくものとする。

## 5. 本県農業教育の活性化に向けた取組み

アグリスペシャリストの育成を目指した  
農業教育が取り組む6つの方策！！

(1) 農業科設置高校のネットワークの確立と中心校の整備

(2) 産学官連携による実践的な農業教育の推進

(3) 実践的なキャリア教育の推進

(4) 専門学科の枠を越えた「幅広い学習システムの導入」

(5) スペシャリストの育成を目指した「学科の編成」

(6) 地域連携・地域貢献の強化

## (1) 農業科設置高校のネットワークの確立と中心校の整備

- 各農業科設置高校は、地域の資源を活かした重点分野を明確化するとともに、相互に補完することを目的にネットワークを確立する必要がある。このため、徳島市内にあり施設・設備が整っている城西高校を中心校とし、ネットワークを確立することにより全県的な農業教育を展開する。
- また、地域の特性を踏まえた全県的な農業教育を展開するため、現行の総合学科における農業教育の充実を図る。

### 各農業科における重点分野（重点科目等）

城西高校	<p>● <b>農業教育中心校として専門性の高い農業教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業の経営と食品産業分野&lt;高品質農産物の栽培、食の安全と食品加工 等&gt;</li> <li>・ バイオテクノロジー分野&lt;シンビジウム等の培養、希少植物の増殖と保護 等&gt;</li> <li>・ 環境創造と素材生産分野&lt;環境教育の推進、菌床シイタケ、すくも作り 等&gt;</li> <li>・ ヒューマンサービス分野&lt;藍染め、見本農園・観光農園 等&gt;</li> </ul> <p>(野菜、果樹、作物、植物バイオ、草花、生物活用、食品製造、食品化学、農業経済)</p> <p>【中心校としての取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校農業クラブ活動の積極的な支援 (高校間での共同研究として環境調査等をコーディネート)</li> <li>・ 地域や関係機関等との連携について共同の窓口となり活力ある農業教育の推進</li> <li>・ 農業祭の合同開催及び各校の農業祭への相互参加の調整</li> <li>・ 中心校として農業教育情報の発信</li> <li>・ 技能検定や研究発表会等の計画推進</li> <li>・ 教職員のスキルアップ研修の推進</li> </ul>
城西高校 神山分校	<p>● <b>造園を中心とした農業教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境創造と素材生産分野 &lt;庭園づくり 等&gt;</li> <li>・ ヒューマンサービス分野 &lt;里山、自然体験 等&gt;</li> </ul> <p>(造園、測量、生物活用、グリーンライフ)</p>
勝浦高校	<p>● <b>園芸を中心とした農業教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイオテクノロジー分野 &lt;リンドウなど希少植物の増殖 等&gt;</li> <li>・ ヒューマンサービス分野 &lt;園芸による癒し効果の研究 等&gt;</li> </ul> <p>(農業情報処理、LED活用、植物バイオ、生物活用)</p>
阿波農業高校	<p>● <b>野菜、果樹、生物活用等を特色とした農業教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業の経営と食品産業分野 &lt;メロン、ブドウなど地域特産品の栽培 等&gt;</li> <li>・ ヒューマンサービス分野 &lt;藍染め、フラワーアレンジメント 等&gt;</li> </ul> <p>(野菜、果樹、草花、食品製造、生物活用)</p>
三好高校	<p>● <b>森林・畜産等、地域資源を活かした農業教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業の経営と食品産業分野&lt;ホンモロコの養殖、アルコール醸造 等&gt;</li> <li>・ 環境創造と素材生産分野 &lt;ホンシメジの栽培、林産加工 等&gt;</li> </ul> <p>(森林科学、菌類学、食品製造、微生物基礎、畜産、果樹、地域貢献)</p>



## (2) 産学官連携による実践的な農業教育の推進

(大学、県農林水産総合技術支援センター(農業研究所・農業大学校等)、農業団体などとの連携)

- 出前講座などによる高度な専門技術の習得
- アレルギー低減野菜や在来種野菜などの共同研究の実施
- 希少植物の保護及び保全活動など環境教育の取組み
- 有機栽培、減農薬栽培及び無化学肥料栽培の実施
- 教職員のスキルアップ研修の実施

## (3) 実践的なキャリア教育の推進

- 先進農家、農業法人などでの現場実習
- 農業者、技術者による学校での実践的指導
- 夏休みなどを活用した長期インターンシップの実施
- 校内販売所などの運営による実践的な経営観念の育成
- 園芸装飾技能士、造園技能士や農業技術検定など、農業に関する資格の取得

## (4) 専門学科の枠を越えた「幅広い学習システムの導入」

- 「モデル農園」の製作など、農業科と工業科の連携による共同研究
- 農業科と商業科の連携による地域特産品の開発
- 他の専門高校への学習機会の提供

## (5) スペシャリストの育成を目指した「学科の編成」

- 新学科の設置校及び学科名

学校名	現行学科名	新学科名(仮称)
城西高校	農業科学科	農業科学科 園芸科学科 食品科学科
阿波農業高校	農業科学科 園芸科学科	農業科学科 生物活用科
三好高校	生物資源類 生物生産コース 森林環境コース 食品発酵コース	環境資源科 食農科学科

- 新学科の設置時期  
平成24年4月

## (6) 地域連携・地域貢献の強化

- 農業科設置高校の生産物を産直市などで販売
- 地域と連携した特産品の研究・開発
- 休耕田や農業施設等を活用した環境保全への取組み
- 専門的な知識と技術を活用し地域に貢献する新しい「学校設定科目」の導入

## 6. 各農業科設置高校が取り組む活性化策

平成26年度までの4年間に各農業科設置高校が農業教育活性化に向けて計画的に取り組む内容

学校名・取組内容・数値目標	年度別実施計画			
	H23	H24	H25	H26
<b>城西高校</b> <b>●農業教育中心校として専門性の高い農業教育の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○農業科学科の学科再編と進路選択に対応したカリキュラムの設定</li> <li>○国公立大学進学に対応した個別指導計画の確立と指導の充実 農業系進学者 H21 9名 → H26 12名以上</li> <li>○高品質特産品の栽培 H26 シンビジウム、シイタケ、ネギ等6種以上</li> <li>○特色ある教育教材の構築 H21 在来種のキュウリの研究 → H26 藍栽培等4種以上</li> <li>○起業家育成教育の推進 H21 毎週木曜日開店 → H26 開店日数の増加</li> <li>○幼・小・中・特別支援学校等との交流学习 H21 4回 → H26 6回(年間) 開かれた学校の推進</li> <li>○新しい視点での農場運営 H26 名東農場を見本農園・観光農園等に再構築</li> <li>○園芸装飾技能士検定3級の資格取得の推進 H21 83% → 100%(目標)</li> <li>○先進地農家や企業等へのインターンシップの推進</li> </ul> <p>【中心校としての取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校農業クラブ活動の積極的な支援 (高校間での共同研究として環境調査等をコーディネート)</li> <li>○地域や関係機関等との連携について共同の窓口となり活力ある農業教育の推進</li> <li>○農業祭の合同開催及び各校の農業祭への相互参加の調整</li> <li>○中心校として農業教育情報の発信</li> <li>○技能検定や研究発表会等の計画推進</li> <li>○教職員のスキルアップ研修の推進</li> </ul>	推進	学科再編		→
<b>城西高校神山分校</b> <b>●造園を中心とした農業教育の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○造園技能士検定3級の資格取得の推進 H21 92.6% → 100%(目標)</li> <li>○園芸装飾技能士検定3級の資格取得の推進 H21 85.7% → 100%(目標)</li> <li>○造園管理等のボランティア活動 H21 2件 → H26 3件 剪定ボランティア等</li> <li>○小・中学生、地域住民との交流学习 H21 2回 → H26 4回(年間) 開かれた学校の推進</li> <li>○絶滅危惧種の保護・保全活動 H21 「ジンリョウユリ」等 3種 → H26 4種以上に拡大</li> </ul>	推進			→

学校名・取組内容・数値目標	年度別実施計画			
	H23	H24	H25	H26
<b>勝浦高校（平成24年度 分校化）</b> <b>●園芸を中心とした農業教育の推進</b> ○農業科単独分校に向けた取組み ○LEDの農業への活用等の実践的研究（工業科との連携） H23「LED活用」（学校設定科目）設置 ○園芸による癒し効果等、福祉と結びつけた農業教育の推進 H24「地域農業」（学校設定科目）設置 ○バイオテクノロジーを活用した絶滅危惧種・希少植物の保護・保全活動 H21 5回 → H26 8回（年間） ○小・中学校、特別支援学校との交流学习 H21 5回 → H26 高校生による指導まで拡大 ○JA「よってネ市」での減農薬野菜販売の推進 H21 3品目 → H26 6品目 ○人形浄瑠璃等の郷土芸能の振興				→
<b>阿波農業高校（平成24年度 吉野川高校開校）</b> <b>●野菜、果樹、生物活用等を特色とした農業教育の推進</b> ○農業科の学科再編に向けた取組み ○アレルギー低減メロン等、ブランドの開発（産学官連携） H21 2品 → H26 5品 商品開発から地域ブランドへ ○有機栽培等食の安心・安全農作物栽培の取組み H21 2か所 → H26 全農場 エコファームとしての取組み ○幼・小・中学校、特別支援学校との交流学习 H21 3回 → H26 5回（年間） 体験教室・出前授業の実施 ○開放講座等地域住民との交流事業 H21 6回 → H26 8回（年間） 農業の持つ教育力で地域貢献 ○食ビジネス科との連携による商品開発と販売 H26 週1回 地域の活性化、地域貢献に繋げる取組み ○校内販売所「あぐりあわのう」や産直市で地産地消の推進 H21 80日 → H26 100日（年間） ○資格取得の取組み H21 70% → H26 100% 卒業までに1人1資格の推進 ○「勤労のススメ事業」（事業所等との連携による就労体験） H21 70% → H26 100%				→
<b>三好高校</b> <b>●森林・畜産等、地域資源を活かした農業教育の推進</b> ○農業科の学科再編に向けた取組み ○ホンシメジ等のブランド化と地域への普及（産学官連携） H21 4品 → H26 栽培方法等を地域に普及 ○地域住民との交流学习機会の提供（園芸講座等） H21 5回 → H26 5回（年間）に加え、地域貢献活動を実施 ○校内販売所「まごころ市」での地産地消の推進 H21 7回 → H26 15回（年間）以上 ○幼・小・中・特別支援学校等との交流学习 H26 特産品を活かした体験学習の実施				→
	推進	分校化		
	推進	開校		
	推進	学科再編		

農業科設置高校の活性化～ 城西高校を中心校としたネットワーク化と連携強化 ～

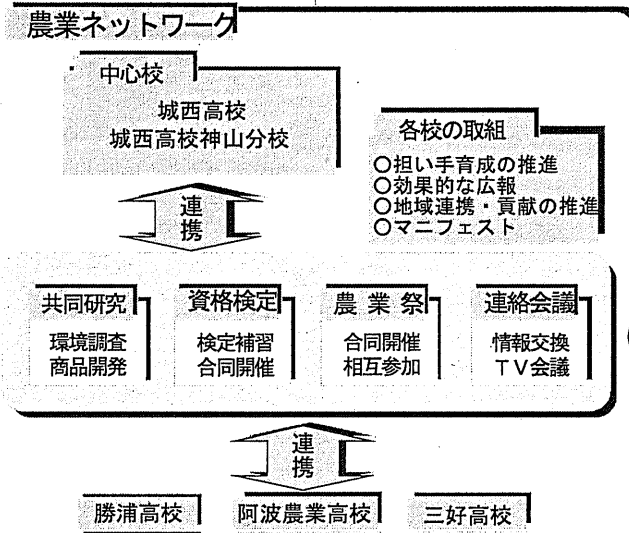
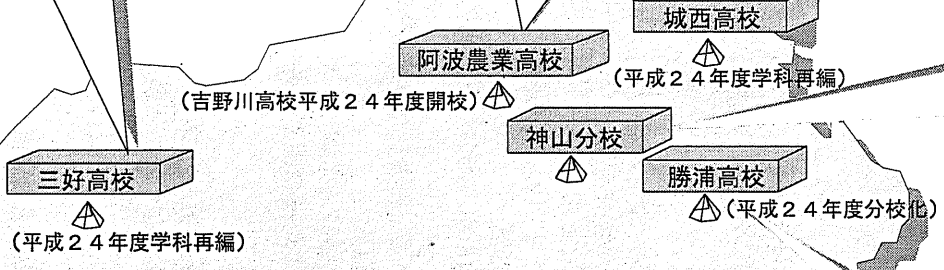
- 設置学科（新学科）  
「環境資源科」、「食農科学科」
- 重点分野（科目等）  
・森林科学、畜産、菌類学、食品製造、果樹、地域貢献 等
- 特色ある教育  
・「ホンシメジの人工栽培」  
・「ブルーベリー栽培」  
・「ホンモロコの養殖」  
・「バイオエタノール及び清酒醸造の研究」

- 設置学科（新学科）  
「農業科学科」、「生物活用科」
- 重点分野（科目等）  
・野菜、果樹、草花、食品製造、生物活用 等
- 特色ある教育  
・「徳島大学等との高大連携」  
・「押し花アート」・「藍染め」  
・「アグリあわのうで地産地消の推進」  
・「フラワーアレンジメント」

- 設置学科（新学科）  
「生物科学科」、「植物科学科」、「食品科学科」
- 重点分野（科目等）  
・野菜、果樹、作物、植物バイオ、草花、生物活用、食品製造、食品化学、農業経済 等
- 特色ある教育  
・「校内販売所そよかぜで地産地消の推進」  
・「香川大学等と高大連携」  
・「遍路道の整備など環境教育の推進」  
・「伝統野菜の研究」

- 設置学科  
「造園土木科」、「生活科」
- 重点分野（科目等）  
・造園、測量、生物活用、グリーンライフ 等
- 特色ある教育  
・「全員受検の造園技能検定等の資格取得」  
・「庭園づくり」  
・「ジンリョウユリの保全活動」

- 設置学科  
「応用生産科」、「園芸福祉科」
- 重点分野（科目等）  
・農業情報処理、LED活用、植物バイオ、生物活用 等
- 特色ある教育  
・「地域農業から学ぶ上勝町の彩」  
・「バイオ技術を活かした環境保全活動」  
・「勝高版デュアルシステム」  
・「棚田の整備」



学校名 設置学科	重点分野 〔重点科目等〕	平成22年度 特色ある教育の取組み等
(1)城西高校 ※平成24年度 学科再編 ■農業科学科 ■園芸科学科 ■食品科学科	●農業の経営と食品産業分野 ●バイオテクノロジー分野 ●ヒューマンサービス分野 ●環境創造と素材生産分野 〔 ・野菜・果樹・作物 ・植物バイオ・草花 ・生物活用 ・食品製造 ・食品化学 ・農業経済 〕	○在来種のキュウリなど、伝統野菜の研究 ○高大連携による専門教育の深化 ○「減塩うどん」など、食の安全・安心や食育を目指した取組み ○校内に設置されている農産物販売所「そよかぜ」で地産地消の推進 ○遍路道の整備や眉山・袋井用水の清掃活動など、環境教育の推進 ○地域連携の取組みとして「そよかぜ農園」で幼稚園児・小学生との交流による体験学習の推進 【現在の設置学科・類】 農業科学科
(2)城西高校 神山分校 ■造園土木科 ■生活科	●環境創造と素材生産分野 ●ヒューマンサービス分野 〔 ・造園 ・測量 ・生物活用 ・グリーンライフ 〕	○庭園づくりなど県内唯一の造園教育 ○ジンリョウユリの増殖・保護活動 ○造園技能検定・園芸装飾検定等、資格検定取得の推進 ○里山づくりや神山森林公園での実習など地域と連携した事業 ○山野草や希少植物などを教材に取り入れた学習 ○地元農家協力による梅干しづくりなど地域に根ざした取組み
(3)勝浦高校 ※平成24年度 分校化 ■応用生産科 ■園芸福祉科	●バイオテクノロジー分野 ●ヒューマンサービス分野 〔 ・農業情報処理 ・LED活用 ・植物バイオ ・生物活用 〕	○上勝町の「彩」で地域農業から学ぶ取組み ○勝浦塾（勝高版デュアルシステム） ○減農薬栽培をめざすなど、食の安全・安心を目指した取組み ○熱帯果樹の栽培など温暖な気候を生かした取組み ○棚田の整備など環境保全活動 【現在の設置学科・類】 園芸科、応用生産科、園芸福祉科
(4)阿波農業高校 ※平成24年度 新高校開校 ■農業科学科 ■生物活用科	●農業の経営と食品産業分野 ●ヒューマンサービス分野 〔 ・野菜 ・果樹 ・草花 ・食品製造 ・生物活用 〕	○高大連携でメロンアレルギーの研究 ○開放講座で押し花アートの開講 ○希少植物のアサザの保護・増殖など環境保全活動 ○近隣の幼小中学校に野菜苗の配布や学校給食への食材の提供 ○豊かな体験活動の一環としての地域別奉仕活動 ○学校間連携による押し花アート、フラワーアレンジメントの指導 【現在の設置学科・類】 農業科学科、園芸科学科
(5)三好高校 ※平成24年度 学科再編 ■環境資源科 ■食農科学科	●農業の経営と食品産業分野 ●環境創造と素材生産分野 〔 ・森林科学・菌類学 ・食品製造・微生物基礎 ・畜産・果樹・地域貢献 〕	○ホンシメジの栽培試験 ○ホンモロコの養殖 ○バイオエタノール試験製造 ○ブルーベリーの栽培など地域産業や環境を活かした学習 ○家畜の飼育、ダチョウの飼育技術など畜産教育の推進 【現在の設置学科・類】 生物資源類
(6)新野高校 □総合学科	●暮らしクリエイト 系列 〔 ・植物バイオ ・農業科学基礎 ・野菜・草花 〕	○総合学科における農業教育 ・伊島ササユリの増殖・保護活動 ・竹太鼓の作成など竹の有効活用 ・農業体験による地産地消の推進 ・演習林実習を通じた森林保護の推進

※城西高校、阿波農業高校、三好高校は平成24年度時点での学科名（仮称）